

NEWS RELEASE

No. 18-3

2018年5月22日
(公財)損害保険事業総合研究所

5月25日発刊「損害保険研究」第80巻第1号のご案内

損保総研では、機関誌「損害保険研究」第80巻第1号を5月25日に発刊します（発刊は5月、8月、11月および2月の年4回です）。

本誌は、研究者と実務家による損害保険ならびにその関連分野に関する研究・調査の発表を通じて、研究者・実務家双方にとり有益かつタイムリーな情報を提供することにより、損害保険に係わる学術振興ならびに損害保険事業の発展に寄与することを目指しています。

★80巻1号の概要

今号には、保険金の不正請求に関する論稿2編をはじめとして、独自の調査により主に損害保険会社職員の金融リテラシーに関する状況を示した論稿、CDS ネットワークのシステミックリスクに関連したモニタリングと早期警戒指標開発への貢献が期待される論稿に加え、国際貿易に関わる新たな電子技術の導入と船積書類における規律について考察した論稿、人身傷害保険における死亡保険金請求権の帰属に関し新たな根拠を示した論稿、ならびに保険会社と共済組合に存在する異なる企業文化は、近代保険が内包する貨幣観に由来するとした1編を掲載しました。

今号も研究者、実務家双方にとり極めて有益と考えますので、是非ご購入くださいますようお願い申し上げます。

【研究論文】

1. 車両の損傷事故・盗難事故において裁判所が求める立証事実

神戸学院大学法学部 教授 岡田 豊基 氏

- * 車両保険における保険事故の仮装が問題とされる車両の人為的損傷および盗難に焦点を当て、保険事故に関して立証すべき具体的事実について、平成18年6月1日、平成18年6月6日、平成19年4月17日、平成19年4月23日における最高裁の立場を確認しながら、これら4判決以後に判示された主要な下級審判決を検討している。

2. 損害保険会社の社員の金融リテラシーと金融教育の課題

— 損害保険事業総合研究所の本科講座受講生へのアンケート調査に基づいて —

神戸大学経済経営研究所 教授 家森 信善 氏

- * 損害保険会社社員の金融・保険リテラシー水準に関する調査・研究は、内外でほとんど行われていない。そこで、筆者は損害保険本科の受講生を対象に金融知識や金融情報の入手態度に関する現状について独自の調査を実施。これにより得られた結果に対して考察を行うとともに、損害保険事業への期待を述べている。

3. クレジット・デフォルト・スワップ市場のネットワークを介した相互関連性のリスク分析

日本大学商学部 教授 菅野 正泰 氏

- * グローバル金融危機を契機として、米国を始めとする各国の規制当局では、CDS 市場に内在する相互関連性の実態解明に大きな関心を寄せている。本研究では米国金融市場におけるCDS マーケットディーラーのシステム上の関係を明らかにするため、バイラテラル・ネットティング、中央清算、およびコンプレッションを考慮した米国CDS 市場のネットワーク構造の分析を行い、グローバル金融危機とその後の期間における各金融機関のシステミックな重要性を評価している。

4. 人身傷害保険における死亡保険金請求権の帰属に関する一考察

— 無保険車傷害保険の性質を踏まえて —

東京海上日動火災保険株式会社埼玉損害サービス部 上田 昌嗣 氏

- * 人身傷害保険を傷害疾病損害保険と捉え、死亡保険金請求権は法定相続人への承継取得とすることが民法の基本原則であるとする点について、人身傷害保険の前身の一つである無保険車傷害保険の性質を分析。また、不法行為における死亡損害の損害賠償請求権の性質を検討することで扶養構成を導入することが可能であるため、人身傷害保険の安定的な運用をもたらすと考察している。

5. 貿易取引における電子式貨物海上保険証券の譲渡

東京海上日動火災保険株式会社海上業務部 新谷 哲之介 氏

- * 貿易書類のブロックチェーンを用いたデータ化は、法規整と融合した検討が国際的に必要とされているが、わが国では世界に先駆けて船積書類のデータ化による貿易実務の革新が試みられている。この論文では、現時点で想定され得る基本課題を視野に、ブロックチェーン技術によって電子データ化された保険証券の譲渡について、最近の判例を考察しながら、保険証券のデータ化のあり方について検討を行っている。

【研究ノート】

6. 新たな視点での保険金不正請求対策

— 諸外国での施策や昨今のIT 環境を踏まえて —

一般社団法人日本損害保険協会 三村 雅彦 氏

- * インターネットの影響により、不正請求の手口が一般消費者でも容易に触れられるようになった現代において、不正請求事案は今後増加していくと思われる。本稿は、2012年以降、日本損害保険協会が取り組んできた保険金不正請求防止活動の内容を振り返り、また、諸外国における不正請求対策の実施状況を検討した上で、新たな提言を行っている。

7. サムエル・ハートリブの“an Office of Insurance”について

—17 世紀イングランドにおける近代保険生成の一齣—

元損害保険ジャパン日本興亜（旧安田火災）職員 永井 治郎 氏

- * 歴史的文献を数多く参照しながら、近代の保険制度生成に関して興味深い考察を展開する元損害保険会社社員による第三作目。共済組合にも勤務した経験から筆者が生み出した仮説を基に、当時の銀行信用の展開には、投資促進を通して新たなリスクを誕生させ、同時に保険信用がこのリスクを保障するという、信用の相互作用が芽生えていたことを導き出している。

【判例研究】

「損害保険判例研究会」判例報告

「自動車保険契約の解約返戻金請求権を差し押さえた債権者の取立権に基づく解約権行使の可否」

立命館大学法学部 教授 竹濱 修 氏

「労災保険給付がなされた場合の自賠法16条1項請求権の範囲と訴訟上の被害者請求における履行期が争点とされた事例」

青山学院大学法学部 教授 山下 典孝 氏

【研究所事業紹介】

「損保総研レポート第122号」概要

「投稿基準、査読申請書、投稿確認書」

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 損害保険事業総合研究所
編集室 三木博生 TEL 03-3255-5513

『損害保険研究』お申込み先

<http://www.sonposoken.or.jp/portal/publications/magazine.html>